

北海道環境白書 '18



<表紙写真>

赤れんがガイアナイト 2018

北海道では、平成20年7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とし、道民一人ひとりが地球温暖化防止に対する理解と意識を深めるための日として7月7日を「北海道クールアース・デイ」と定め、この日を中心に全道各地で普及啓発を行っています。

北海道庁赤れんが庁舎では、家庭や職場などそれぞれの活動の場において電気照明を消して、ローソクの光の中で、地球環境のこと、未来のことを静かに考えるきっかけとするため「赤れんがガイアナイト2018」を開催しました。

<裏表紙写真>

北海道命名 150 年記念桜植樹

北海道の豊かな自然を、次の50年、100年へとつないでいくため、道内外から広く寄附を募り、道立自然公園野幌森林公園の「北海道博物館、北海道開拓の村」において、未来に向けたシンボルとして、エゾヤマザクラ 150 本を植樹しました。

環境白書についてのお問い合わせは、北海道環境生活部環境局環境政策課へご連絡ください。

T e l 011-231-4111 (代表) 内線24-205

011-204-5188 (直通)

F a x 011-232-1301

U R L <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ksk>

E-Mail kansei.kankyou@pref.hokkaido.lg.jp

環境白書の刊行に当たって



北海道は、先住民族であるアイヌの人たちの自然を敬う考え方を大切にしながら、多くの方々の熱意やご努力、創意と工夫により、個性豊かで魅力あふれる大地へと発展してきました。その中で先人は、豊かな恵みをもたらし、時にやさしく時には厳しい大自然と向き合いながら、今日に続く本道の礎を築いてきました。

私たちは、先人から受け継いできたこの豊かな自然環境を、次の世代へと引き継ぐとともに、将来にわたって持続可能な地域づくりに取り組んでいかなければなりません。

一方で、本道の環境を取り巻く状況はたえず変化しています。特に昨年は、本道がかつて経験したことのない最大震度7を記録した胆振東部地震が発生し、水道の断水や災害廃棄物の発生、更には地震直後に起きた大規模停電による暮らしや産業への影響など、改めて災害への備えの重要性を認識する機会となりました。また、近年、頻発する記録的な大雨の一因と指摘されている気候変動、エゾシカ等による農林水産被害やヒグマの住宅地への出没など人と野生鳥獣との軋轢、アライグマなどの外来種による生態系への影響など、私たちを取り巻く課題は幅広い分野にわたっています。

こうした課題に対応するため、道では、災害廃棄物の迅速かつ適正な処理を推進することを目的に「北海道災害廃棄物処理計画」を昨年3月に策定するとともに、環境にやさしい水素社会の形成を目指す移動式水素ステーションの整備への支援、鳥獣保護区におけるエゾシカのより効果的な捕獲に向けた指定管理鳥獣捕獲等事業の実施、企業・団体の皆様による生物多様性保全の模範的な活動を表彰する「未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」の創設などに取り組み、環境への負荷が少なく持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて着実に歩みを進めています。

私たちは、これからも環境の恵みを享受することができるよう、一人ひとりが本道の環境について考え、持てる英知を結集し、自然豊かなこの環境を守り育てていくことが大切です。

本道の環境についての状況や道の施策などを取りまとめた本書が、皆様の環境保全に対する理解を深め、行動の一助となることを心から願っています。

平成31年1月

北海道知事 高橋 はるみ

この報告書は、北海道環境基本条例第8条の規定に基づき、道が平成30年第3回北海道議会定例会に報告した「平成30年 環境の状況等に関する年次報告」を基に作成しました。

平成20年3月に策定（平成28年3月改訂）した「北海道環境基本計画 [第2次計画]」に沿った構成とし、本道の環境の状況や環境の保全等に関連する施策の進捗状況などを取りまとめています。